

◇ 復旧までの時系列

平成23年

3月11日 東日本大震災発生

- ・1号機：出力100万kWで運転中⇒手動停止
- ・2号機：ボイラー点検のため運転停止中

5月～ 瓦礫撤去、設備被害状況調査

8月～ 被害設備撤去

平成24年

1月～ 大型設備復旧作業

6月28日 275kV送電線より所内電源を受電

10月29日 2号機ボイラー点火

10月31日 2号機タービン通気

11月 3日 2号機9：00並列（試運転開始）

◇ 早期復旧に向けた工夫など

メーカーや関係会社を含め全社一丸となった早期復旧体制を構築し、一日も早い復旧に向けた細かな復旧工程の調整に努め、昼夜二交替作業や据付方法の効率化、仮設設備の活用、工場製作機器の納期短縮などによる工程前倒しに取り組み、早期復旧を図った。

<具体的な取組事項>

①昼夜二交替作業

ボイラー、電気集塵器、微粉炭機などの主要機器の復旧作業において実施した。

②据付方法の効率化

道路横断部のケーブル敷設をラックから埋設へ変更することで機器搬入ルートを複数確保したことや、大物搬入用の開口部を追加設置するなど、機器の搬入や据付方法の効率化を図った。

③仮設設備の活用

給水・排水処理について仮設設備を使用することで、機器の単体試運転の早期実施が可能となった。

④機器の納期短縮

納入に時間を要する海外調達品を国内品に代替したほか、設備をブロック単位に分けて複数の工場で組み立て、輸送方法を船から航空機に変更するなど、納期短縮へ最大限取り組んだ。

◇ 原町火力発電所外観（復旧後）



◇ 被災前後の設備（左：震災直後 右：復旧後）
事務所



2号主要変圧器



揚炭機



石炭輸送コンベア



灰処理装置付近

